

[4] 串間市小体連（学校数10校 児童数869人）

I 年間事業

期 日	事業名	主な内容	会 場
4月19日(火)	第1回理事会	前年度事業、会計報告・役員選出・事業計画・予算案の審議	金谷小学校
5月18日(水)	第1回南那珂地区小中学校教科等研究会		南郷ハートフルセンター
5月31日(火)	第2回理事会	研究推進・水泳記録会検討・新体力テスト・県小体連理事会等の報告	金谷小学校
6月24日(金)	第3回理事会	研究推進・水泳記録会検討	金谷小学校
7月25日(月)	第4回理事会	水泳記録会前日準備	福島小学校・市総合運動公園内プール
7月26日(火)	第37回串間市小学校水泳記録会		市総合運動公園内プール
8月22日(月)	第5回理事会	研究推進・陸上教室検討	金谷小学校
9月13日(火)	第6回理事会	研究推進・陸上教室検討	金谷小学校
10月17日(月)	第7回理事会	陸上教室前日準備	福島小学校・市総合運動公園陸上競技場
10月18日(火)	第51回串間市小学校陸上教室		市総合運動公園陸上競技場
11月 4日(金)	第8回理事会	指導案検討、研究推進	金谷小学校
11月22日(火)	第2回南那珂地区小中学校教科等研究会		都井小学校
2月 2日(木)	第9回理事会	事業反省・研究のまとめ	金谷小学校
2月22日(水)	第3回南那珂地区小中学校教科等研究会		南郷ハートフルセンター

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

(1) 大会名 第37回 串間市小学校水泳記録会

(2) 実施日 平成28年7月26日(火)

(3) 会 場 串間市運動公園内プール

(4) 出場者 串間市内各小学校5、6年生代表児童

(5) 実施種目

○ 自由形25m、50m(5、6年別)

○ 平泳ぎ25m、50m(5、6年別)

※ただし、50m平泳ぎのみ5・6年混合で競技する。(男女は別)

○ 100mリレー男子、同女子

(6) 競技方法

○ タイムレースとし、出場は、100mリレーを除き、1人2種目とする。

○ 競技は、原則として学年別、男女別とする。

○ その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

(7) 日程 開会式 8:40 競技開始 8:50

競技終了 11:00 閉会式 11:10

(8) 表彰

○ 上位6名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。

(9) 反省

前日準備や当日準備について、市の施設担当および校長会において事前に協力を呼びかけた結果、体育主任の負担が大きく軽減された。来年度も体育主任の負担感を軽減していく方向で運営したい。水分補給や休憩を適宜入れたため進行が30分程遅れた。児童の体調面を最優先した結果であり、健康面に留意した大会運営を今後も行っていくために、大会の開始時刻を早めていく。昨年度に引き続き目的達成にせまる素晴らしい大会であった。

2 陸上大会

- (1) 大会名 第51回 串間市小学校陸上教室
- (2) 実施日 平成28年10月18日(火)
- (3) 会場 串間市総合運動公園内 陸上競技場
- (4) 出場者 串間市内各小学校6年生児童 ※複式校などは5年生も参加(193名)
- (5) 実施種目
 - トラック競技
 - ・100m ・800m(女子) ・1000m(男子) ・50mハードル ・400mリレー
 - フィールド競技
 - ・走り高跳び ・走り幅跳び ・ソフトボール投げ
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする
 - 出場は、100mとリレーを除き、1人2種目とする。100mは全員参加とする。フィールド競技は、1人1種目しか参加できない。
 - 競技は、原則として学年別、男女別とする。
 - その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程

開会式	9:00	競技開始	9:40
競技終了	15:00	閉会式	15:10
- (8) 表彰
 - 上位6名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。
- (9) 反省

28年度も天候に恵まれ、陸上運動を通して精一杯競い合う児童の態度や、運営を支える役員、串間市陸上競技協会の協力など、学習成果の発表の場にふさわしい大会であった。記録判定を行う写真判定器の不安定さ、及びそれを扱う陸上協会の方々との連携については協議が必要である。大会予定日となる10月中旬の気温が年々上がってきており、熱中症対策についても事前に手立てを講じる必要がある。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさや喜びにふれ、生涯にわたって運動に親しむ能力を育てる体育学習を目指して
～「表現リズム遊び」「表現運動」指導の工夫改善を通して～

2 主題設定の理由

現行の体育科学学習指導要領は、「心と体を一体としてとらえる」ことを重視して改訂された。近年、メディアの急速な発達により子どもの外遊びが激減しただけでなく、SNS等を使った短い言葉のみのコミュニケーションによって心が不安定になりストレスを抱えるなど、子どもの「心」と「体」の調和がとれていないと感じる。このような現状の中、子どもたちの心身の発達を目指す体育の役割は極めて大きい。その中でも、体育における「表現リズム遊び・表現運動」は、その特性から子どもの「心」と「体」を成長させるのに大変有効な領域と考えている。

古来より人間は喜びや感動を踊りで表現してきた。伝統芸能や祭りをはじめ、現代的なダンスにおいても、会場全体で感情を共有し、一体感や高揚感を生み出す力がある。つまり「表現リズム遊び・表現運動」には勝敗がない、個性を生かせる、友達との一体感が味わえるなど、他の運動領域とは違う特性がある。この「表現リズム遊び・表現運動」の特性を生かせば、子どもが自分の感情に素直になり、いろいろな思いを体で表現することで自己を開放し、心身の不調和の解消につながると考える。しかし、現状として指導者がこの「表現リズム遊び・表現運動」の領域を、「どのように指導すればよいか」「運動会の種目としてのみ指導するのではいけないのか」など、消極的な意見が多い。

そこで、串間市小体連では、平成26年度から3か年というスパンで「表現リズム遊び・表現運動」を研究することにした。昨年度までの研究は、指導者の実態把握のためにアンケートをとって分析し、そこで挙げられた課題を解決する手立てを考えた。例えば、「表現リズム遊び・表現運動」で使用する教具・教材の開発、整備、配付や、授業研究会の実施、単元計画の作成などである。

今年度は、本研究3年目「まとめ」の年となる。この3か年の研究の成果をまとめるとともに、す

すべての指導者が、「表現遊び・表現運動」の指導に臆することなく、子どもたちとともに活動できるように単元計画や指導過程の作成例、使いやすい教具・教材の整備をしっかりとしておく。こうすることで、市全体へ研究内容を広め、児童が進んで仲間と関わったり、動きを工夫したりしながらリズム遊びや表現運動の楽しさを味わい、その魅力や特性に触れることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

教師の指導力の向上を図り、児童が豊かなコミュニケーション能力を身に付け、表現運動の楽しさや喜びを味わうことができる授業づくりを究明する。

4 研究の仮説

「表現リズム遊び」「表現運動」において、指導に有効な資料や教具等を整備し、指導内容や方法について共有することができれば、教師の指導力の向上につながり、児童も表現運動の楽しさや喜びを味わうことができるであろう。

5 研究計画

研究年度	26年度（土台をかためる）	27年度（全体へ広める）	28年度（研究の成果をまとめる） 本年度
研究内容	(1) 実態 (2) 指導内容の確認 (3) 実践授業による指導過程の検討 (4) 資料・教具等の整備・作成	(1) 資料・教具等の整備・作成、配付 (2) 授業研修会の実施	(1) 研究のまとめ (2) 研究授業 (3) 授業研究会の実施

6 研究の実際

(1) 研究授業

「表現遊び・表現運動」3か年の研究のまとめとして、研究授業を南那珂地区小中学校教科等研究会体育・保体部会で提案した。

1 授業者 凶師啓吾教諭（串間市立都井小学校 第5・6学年1組）

2 単元名 表現運動（表現：大変だ！！）

3 本時の目標

○ 自分やグループのよさを知るとともに、練習や発表会で動きを工夫している。（思考・判断）

本時の評価項目

○ 自分やグループのよさを伝え合い、練習や発表会で動きを工夫している。（思考・判断）

4 授業のポイント

- ・ 導入における、心と身体をほぐす運動の工夫
- ・ 児童のイメージを広げるイメージカードと音楽CDの活用
- ・ 表現運動を豊かにする言葉かけの工夫
- ・ 児童同士の評価の工夫
- ・ 表現の広がりを高める4つのポイント（時間性・空間性・関係性・運動性）の提示



(2) 授業研究会

協議題は「表現遊び・表現運動の学習を通して考える『できる』体育授業の在り方はどうあればよいか」とし、話し合いを行った。協議内容を抜粋して紹介する。

1 授業者反省（図師先生）

表現の経験があまりない。運動性を広げることができるとよい。時間配分を調整すればよかった。イメージをもって真似し合うという流れがよかった。表現の広がり高める4つのポイント（時間性・空間性・関係性・運動性）を意識して授業を組み立てた。

2 質疑及び感想

Q1 4つのポイントを児童が無意識にできていたが、手だては何かしたのか？

A1 毎時間取り組んだことによる成果であると思う。

4つのポイントは無意識でやっていた。BGMをずっと流していたのはなぜ？

Q2 BGMは子どもが決めたのか？

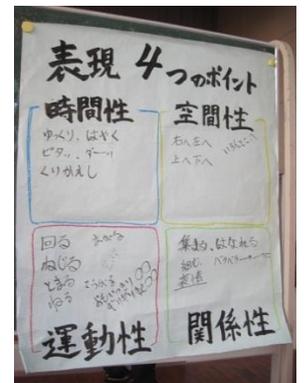
A2 空白の時間を作りたくない。座って話し合う事を避けた。曲は子ども達に選ばせた（串間市小体連作成CDより）。

感想1 「できる」ということで視覚的な掲示物をつくったのが大変よい。

感想2 「わかる」があつて表現だと思うが「できる」前に「わかる」があるのではないか。そのために子どもが書くという行為も必要ではないか。

3 まとめ（日南市小学校体育連盟会長前村賢一校長先生より）

- ・ 準備運動が大切（特に心の準備運動）
- ・ 教師の言葉かけが大切（擬態語擬音語を大切にす。イメージがわくような言葉かけをすればよい）
- ・ ペアの活動（動きの指導をするのであればしっかり聞かせる。明確に助言する。）
- ・ グループでの活動はペアでの活動が生きていた。
- ・ 4つのポイント・視点は素晴らしいと感じた。
- ・ 「ひとながれ」と「ひとまとまり」の違いを子ども達に理解せる。
- ・ 教師がゴールイメージを持つことが大切である。
- ・ 振り返りがとてもよかった。教師の意図を子ども達が理解していた。
- ・ 表現運動は能力差がなくみんなが楽しめるのが特性である。今日の授業はそれができていた。



7 研究の成果と課題

- 3か年の研究の成果を研究授業という形で、「表現遊び・表現運動」の指導方法及び教材・教具の使い方について分かりやすく提案できた。
- 串間市小体連で「わかる」「できる」「かかわる」を意識して授業を展開するための基本的な単元計画や指導過程を作成することで、「表現遊び・表現運動」の授業作りがしやすくなった。
- 評価の在り方について十分に研究が進められなかった。



IV まとめ

串間市は複式学級を有する学校や少人数学級など学校ごとの実態の違いがあり、体育科の指導だけではなく、水泳記録会、陸上教室などの事業運営や研究を進める上で課題が多い。しかし、小体連理事の先生を中心に協力、分担しながら事業を運営したり、研究を進めたりすることができた。

事業部や研究部で出された反省を生かしつつ、次年度もねらいに迫れるように取り組んでいきたい。